

所信表明

第45回青年経営者全国交流会 in 茨城について

● 昨今、中小企業を取り巻く環境は日々大きく変化し、先行きの不透明感は否めない状況であります。ですがそもそも先行きが透明な時代などあったのでしょうか？
1945年8月15日 焼け野原から始まった戦後日本が驚異的な復興を遂げ、40年後には世界屈指の経済大国へと成長すると誰が予測できたでしょうか？
1985年末、日経平均株価13,000円台から始まったバブル経済は4年後39,000円台にまで膨れ上がりその1年後に2万円前半まで急降下、そこから失われた20年と呼ばれる経済低迷期へと迷い込みました。いったい誰が予測できたでしょうか？
2011年3月11日午後2時46分東日本に甚大な被害を及ぼした東日本大震災が発生しました。いつか大地震は起きるとい話は常にありましたが、ここまでの大災害になると誰が予測できたでしょうか？

このように予測が難しい時代の中にあっても、私たち経営者は企業を維持発展させる責任があります。その責任を全うする為に我々経営者はどう学び、どの様な能力を身に付けねばよいのでしょうか。我々中小企業家同友会が日々学んでいる事は『人を生かす経営』の実践です。いい会社になろう・いい経営者になろう・いい経営環境をつくろうという目的を掲げ中小企業の発展から日本の未来を創る活動を行っています。ここではまず学び方を学ぶ所から始まります。経営者の経営課題や経営体験を報告する事によって自社の課題と重ね合わせ更にグループ討論で多様な意見を取り入れる事により考え方を深化させていく、そして学んだ事を自社に持ち帰り実践する。これがその時代に生きた学びであり実践だと考えます。

その中小企業家同友会が行う4つの全国行事のうち1つ青年経営者全国交流会が2017年9月に茨城県水戸市で行われます。企業後継者の養成と同友会運動の後継者養成を主眼とし、次代を担う青年経営者が同友会理念を継承し、企業革新と自己変革の意欲に燃える『青年の志』を持って全国から集う非常に刺激的で熱い全国大会です。この先10年以上関東圏で行われることは無いこの青年経営者全国交流会、ちなみに茨城大会の翌年2018年は沖縄です。志し高い全国経営者が集まるこの貴重な機会をぜひ茨城県内の同友会会員のみでなく他団体の中小企業経営者の方にも体験して頂きたい、いや体感するべきですし体感するべきだと言う事を伝える責任が我々実行委員にはあると思えます。

そしてこの全国大会を設営する過程で茨城同友会として成し遂げたい想いがあります。

- ① 2012年度をピークに減少を続けている会員数を再度増加へと転じさせ2017年度500名会員を達成する。
- ② 青全交運営を通してより会員相互の理解を深め、胸襟開いて語り合える志高き経営者が集まる魅力的な茨城同友会を創り上げる。
- ③ 他県や他団体との積極的な交流のなかで、同友会活動及び理念の発信を図り志高き経営者の輪を広げていく。
- ④ 茨城県の魅力を再発掘・発見し、世界へ向けて発信するきっかけとする。
- ⑤ 運営に積極的に携わった会員企業が経営指針に基づき、物心両面確実にいい会社へと成長する。

これらを成し遂げる為には一人でも多くの会員の知識と経験を必要としています。実行委員長としてまだまだ未熟ではありますが、強い覚悟を持って会運営を進めて行く所存です。みなさまのご理解とご協力を何卒宜しくお願いいたします。

最後に実行委員長として一つ夢を持っております。

2017年9月14日青全交当日、30年前に茨城同友会を設立された大先輩から起業間もない若手経営者まで500名が肩を組んで文字通り一枚岩となり、全国から集まる1000名を超える参加者をオール茨城でお迎えする事です。ずらりと並んだ茨城同友会員の顔には当日までにやれる事はやりつくした充実感とこれから始まる2日間の大会に対する期待感に輝いています。みなさんがその一員となっている事を目指して頑張ります。

茨城県中小企業家同友会
全国大会実行委員長 八巻大介